

科目名	日本語学の基礎 I	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	ふだん何気なく使っている私たちの日本語には、実は今まで気づかなかったさまざまなルールが存在している。この授業ではその日本語のルールについて、文字・音・語彙・文法といったさまざまな観点から考えながら基礎を学んでいく。
	到達目標	この授業をとおして、これまで意識していなかった母語（日本語）について客観的に観察できるようになり、また、それを適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション 日本語学とは何か？ (2) 日本語の文字 (1) (3) 日本語の文字 (2) (4) 日本語の音韻・音声 (1) (5) 日本語の音韻・音声 (2) (6) 日本語の語彙 (1) (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 日本語の語彙 (2) (9) 日本語の文法 (1) (10) 日本語の文法 (2) (11) 日本語の文法 (3) (12) 日本語の文法 (4) (13) 日本語の文法 (5) (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 日本語の文法 (6)	
自学自習	事前学習	ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。
	事後学習	小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	益岡隆志（編）（2011）『はじめて学ぶ日本語学 ことばの奥深さを知る 15 章』ミネルヴァ書房。（ISBN 4623061213） 工藤浩ほか（2009）『改訂版 日本語要説』ひつじ書房。（ISBN 4894764682） 日本語記述文法研究会（編）『現代日本語文法』くろしお出版。 庵功雄（2012）『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える（第2版）』スリーエーネットワーク。（ISBN 4883195893） その他、授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	日本語の文字・音韻音声・語彙・文法について、基礎的なことが理解できていれば合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、期末試験の受験を認めない（追・再試験を受けることもできない）。
備考	ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語学の基礎Ⅱ	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業では、現代標準語ではなく、方言を中心に取り上げることで、日本語にはどのような地域差や歴史があり、どのような変化をたどってきたのかについて学ぶ。
	到達目標	テキストは方言学の入門書を使用するが、日本語がどのような地域差や歴史を持っているのか、そしてどのように変化してきたのかについても理解し、それを適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション 方言学とは何か？ (2) 第1章 地図から見えることばの地域差 (3) 第1章 地図から見えることばの地域差 (4) 第1章 地図から見えることばの地域差 (5) 第2章 ことばの仕組みから見える地域差 (6) 第2章 ことばの仕組みから見える地域差 (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 第2章 ことばの仕組みから見える地域差 (9) 第3章 コミュニケーションから見えることばの地域差 (10) 第3章 コミュニケーションから見えることばの地域差 (11) 第4章 社会の変化から見えることばの地域差 (12) 第4章 社会の変化から見えることばの地域差 (13) 第5章 「方言」から見える日本の社会 (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 第5章 「方言」から見える日本の社会	
自学自習	事前学習	テキストの当該の箇所を読んでくること。
	事後学習	小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	木部暢子ほか（編著）（2013）『方言学入門』三省堂。（ISBN 4385363935）
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	日本語の方言、歴史、変化について、基礎的なことが理解できていれば合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく5回以上欠席した者は、期末試験の受験を認めない（追・再試験を受けることもできない）。
備考	ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語の音声	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業では、日本語の音声について、どのように発音がなされているのかといったことについての概説を行う。なお、適宜英語など日本語以外の言語の音声にも触れながら音声学の基礎について学ぶ。
	到達目標	この授業をとおして、発声や発音のしくみについて理解し、重要事項が説明できるようになる。また、現代日本語の音声における母音・子音・アクセントなどの特徴を理解し、それを適切な音声学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション 音声学とは何か？ (2) 音声器官 (3) 子音 (1) (4) 子音 (2) (5) 子音 (3) (6) 子音 (4) (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 子音 (5) (9) 母音 (1) (10) 母音 (2) (11) 母音 (3) (12) 音節とモーラ (13) アクセント (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 鹿児島方言の音声	
自学自習	事前学習	テキストの当該の箇所を読んでくること。
	事後学習	小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	斎藤純男 (2006) 『日本語音声学入門 改訂版』三省堂。(ISBN 4385345880)
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	日本語の音声について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できていれば合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、期末試験の受験を認めない (追・再試験を受けることもできない)。
備考	予習・復習の欠かせない授業であることをよく理解して受講してください。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語の文法	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業では、日本語の文法について取り上げ、そこに潜んでいるルールについて学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、自分のことばだどのように言うか考える「内省」などの作業を含むので、積極的な授業参加が求められる。
	到達目標	この授業をとおして、日本語の文法の基礎について理解し、重要事項について適切な言語学・日本語学の用語・概念で説明できるようになることを目指す。
授業計画	(1) オリエンテーション 文法とは何か？ (2) 形態論 (1) (3) 形態論 (2) (4) 形態論 (3) (5) 形態論 (4) (6) 品詞 (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 統語論 (1) (9) 統語論 (2) (10) 統語論 (3) (11) 統語論 (4) (12) 文法カテゴリー (1) (13) 文法カテゴリー (2) (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 形容詞	
自学自習	事前学習	ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。
	事後学習	小テストと期末試験に向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	日本語の文法について、基礎的なことに加え応用的なことも理解できていれば合格とする。
	方法	期末試験 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、期末試験の受験を認めない（追・再試験を受けることもできない）。
備考	ことばに興味がある学生の受講を歓迎します。何か質問があれば気軽に声をかけてください。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語の表現	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	大学生になり、さまざまな形で日本語で発信する（書く・話す）機会がある。この授業では、書くものとしてメールとパラグラフ、話すものとしてプレゼンテーションを取り上げ、その基礎的な知識を身につけるとともに、実践的な力を養成する。
	到達目標	メール、パラグラフ、プレゼンテーションについて基礎的な知識を身につけ、それを実践する。また、それぞれ日本語（言語）に関するトピックを題材にすることで、日本語（言語）の研究の方法の基礎についても理解できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 日本語の文字体系 表記の仕方 (3) メール の書き方 (4) パラグラフ・ライティング (1) (5) パラグラフ・ライティング (2) (6) 引用の仕方 参考文献の書き方 (7) 小テスト (8) 小テスト解説 プレゼンテーションの仕方 (1) (9) プレゼンテーションの仕方 (2) (10) プレゼンテーションの仕方 (3) (11) 学生による発表 (1) (12) 学生による発表 (2) (13) 学生による発表 (3) (14) 学生による発表 (4) (15) 学生による発表 (5)	
自学自習	事前学習	授業時に指示される課題に取り組むこと。また、各自の発表に向けて準備すること。
	事後学習	小テストに向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	日本語の文章表現の特徴を理解し、メール・パラグラフなどを書くことができるようになるとともに、構成の整ったプレゼンテーションができるようになれば合格とする。
	方法	発表 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、不合格とする。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語と社会	
担当者	平塚 雄亮 / HIRATSUKA, Yusuke	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	この授業は「社会言語学」について学ぶ。社会言語学は、その名のとおり社会と言語の関係について学ぶ分野である。この授業では、特に日本語を取り巻く社会的な状況について、地域、年齢、性別などといった社会的属性に注目しながらことばのバリエーションを観察していく。
	到達目標	社会のなかでことば、特に日本語のバリエーションがどのような役割を果たしているのかを分析できるようになることを目標とする。また、私たちが過ごす鹿児島県の方言が社会とどのように関係しているのかについても理解できるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション 社会言語学とは何か？ (2) ことばのバリエーション (1) (3) ことばのバリエーション (2) (4) 国内の日本語のバリエーション (5) 海外の日本語バリエーション (6) ピジン・クレオール (7) 小テスト (1) (8) 小テスト (1) 解説 ことばの切換え (9) 言語の死と危機言語 (10) 言語計画 (11) 第一言語習得 (12) 第二言語習得 (13) ことばのイメージ 言語景観 (14) 小テスト (2) (15) 小テスト (2) 解説 鹿児島方言と社会	
自学自習	事前学習	ふだんからことばづかい、友だちや家族との会話、テレビ、新聞、インターネットなど、日常生活にある言語を注意深く観察しておくこと。
	事後学習	小テストと期末レポートに向けて復習を欠かさないこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし。授業時にハンドアウトを配布する。
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	社会言語学の意義、内容が理解できていれば、合格とする。
	方法	期末レポート 50%、小テスト 20%、授業時の提出物・態度 30% 正当な理由なく 5 回以上欠席した者は、期末レポートの提出を認めない。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本文学史 I	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本の古代から中世までの古典文学の流れについて講述する。毎回、各時代の主要な作品を取り上げ、具体的に原文の一部を音読、鑑賞しながら、作品のもつ特徴について考察する。
	到達目標	1) 日本古典文学における時代区分やジャンルを理解する。 2) 作品の成立時期や作者、内容を説明することができる。 3) 作品の原文を正しく読み、鑑賞することができる。
授業計画	(1) 時代区分とジャンル (2) 神話と伝説 (3) 万葉仮名の和歌 (4) 漢詩文 (5) 中古の和歌 (6) 物語（源氏物語以前） (7) 日記文学 (8) 随筆文学 (9) 物語（源氏物語以後） (10) 歴史物語 (11) 説話文学 (12) 軍記物語 (13) 中世の和歌と連歌 (14) 御伽草子 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読み、授業で取り上げる内容について把握しておくこと。
	事後学習	・授業で取り上げた作品の成立時期・作者・内容について十分に理解する。 ・授業で取り上げた作品の原文を熟読し、レポート課題をまとめる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』ミネルヴァ書房 2010年 ISBN 4623049620 久保田淳編『日本文学史』おうふう 1997年 ISBN 9784273029883 他
成績評価の基準と方法	基準	授業で取り上げた作品の成立時期・作者・内容について正しく理解し、原文を読解できれば合格とする。
	方法	テスト（60%）、レポート課題（30%）、受講態度（10%）
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本文学史Ⅱ	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	テキストを参照しながら近代日本文学史を概説する。各時代の代表的な作家、作品、思潮を解説する。
	到達目標	近代日本文学史の流れを理解し、代表的な作家、作品を知る。
授業計画	(1) イントロダクション 日本近代文学史とは？ (2) 明治初期の文学史 (3) 明治20年代の文学① 言文一致と小説論 (4) 明治20年代の文学② 近代文学のはじまり？ (5) 明治20年代の文学③ 硯友社ほか (6) 明治20年代の文学④ 『文学界』をめぐって (7) 日露戦争前後の文学 自然主義の周辺 (8) 明治40年代の文学① 二外の復活 (9) 明治40年代の文学② 漱石の登場 (10) 明治40年代の文学③ 明治末期の同人誌 (11) 大正の文学① 『新思潮』の周辺 (12) 大正の文学② プロレタリア文学 (13) 昭和初期の文学① 新感覚派の登場 (14) 昭和初期の文学② 「文芸復興」の周辺 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布。所持しているものは、高校時代の国語便覧を持参すること。
	参考文献	安藤宏『日本近代小説史』 2015年 ISBN978-4-12-110020-7
成績評価の基準と方法	基準	近代日本文学史に対する理解、関心が深められれば合格とする。
	方法	レポート60%、受講態度30%、コメントシート10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	古代文学講読 I	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	『百人一首』の歌を一首ずつ取り上げ、演習形式で輪読する。くずし字を解読し、歌の内容と歌人に関する考察を発表する。そのうえで、受講者全員でディスカッションを行い、和歌の表現世界について理解を深める。
	到達目標	1) くずし字を解読することができる。 2) 古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 歌人について調べ、説明することができる。 4) 和歌の技法や表現について理解することができる。
授業計画	(1) 『百人一首』の成立と撰者について (2) 『百人一首』の構成、参考文献について (3) くずし字解読練習 (4) 小野小町 (演習モデル) (5) 在原業平 (6) 凡河内躬恒 (7) 壬生忠岑 (8) 紀友則 (9) 紀貫之 (10) 右大将道綱母 (11) 和泉式部 (12) 紫式部 (13) 赤染衛門 (14) 清少納言 (15) 総括 くずし字確認テスト	
自学自習	事前学習	・毎回、くずし字を前もって翻字しておくこと。 ・意味のわからない語句や表現をチェックしておくこと。
	事後学習	・くずし字を再確認する。 ・演習中に明らかになった問題点について再考、補足する。
使用教材・参考文献	使用教材	谷知子『百人一首(全)』角川ソフィア文庫 2010年 ISBN 9784044072186
	参考文献	中野三敏『くずし字で「百人一首」を楽しむ』角川学芸出版 2010年 ISBN 9784046214416 有吉保『百人一首』講談社学術文庫 1983年 ISBN 9784061586147 他
成績評価の基準と方法	基準	作成した発表資料に基づきながら発表、質疑応答を行い、くずし字確認テストでくずし字を解読できれば合格とする。
	方法	演習 (50%)、くずし字確認テスト (40%)、授業参加度 (10%)
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	古代文学講読Ⅱ	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	演習形式で『伊勢物語』をくずし字で輪読する。語句や表現を調べ、考察した内容を現代語訳とともに発表する。そのうえで、受講者全員でディスカッションを行い、それぞれの章段の主題と特徴について理解を深める。
	到達目標	1) くずし字を解読することができる。 2) 古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 古典文学に息づく美意識について考え、鑑賞することができる。
授業計画	(1) 『伊勢物語』について (2) 在原業平とその周辺、参考文献について (3) くずし字解読練習 (4) 第3段 (演習モデル) (5) 第6段前半 (6) 第6段後半 (7) 第12段 (8) 第24段前半 (9) 第24段後半 (10) 第60段 (11) 第63段前半 (12) 第63段後半 (13) 第96段前半 (14) 第96段後半 (15) 総括 くずし字確認テスト	
自学自習	事前学習	・ 毎回、くずし字を前もって翻字しておくこと。 ・ 意味のわからない語句や表現をチェックしておくこと。
	事後学習	・ くずし字を再確認する。 ・ 演習中に明らかになった問題点について再考する。
使用教材・参考文献	使用教材	石田穰二『伊勢物語―付現代語訳』角川ソフィア文庫 1979年 ISBN 9784044005016
	参考文献	新編日本古典文学全集『伊勢物語 他』1994年 ISBN 9784096580127 阿部俊子『伊勢物語 上・下』講談社学術文庫 1979年 ISBN 9784061584143 他
成績評価の基準と方法	基準	作成した発表資料に基づきながら発表、質疑応答を行い、くずし字確認テストでくずし字を解読できれば合格とする。
	方法	演習 (50%)、くずし字確認テスト (40%)、授業参加度 (10%)
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中世文学講読 I	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	演習形式で『徒然草』を輪読する。くずし字を解読し、語句や表現を調べて考察した内容を現代語訳とともに発表する。そのうえで、受講者全員でディスカッションを行い、『徒然草』に見られる人生観や自然観、美意識について理解を深める。
	到達目標	1) くずし字を解読することができる。 2) 古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 『徒然草』に見られる人生観や自然観、美意識について考え、理解を深める。
授業計画	(1) 『徒然草』の成立と時代背景 (2) 兼好について (3) くずし字解読練習 (4) 序段 (演習モデル) (5) 第 8 段 (6) 第 11 段 (7) 第 18 段前半 (8) 第 18 段後半 (9) 第 32 段前半 (10) 第 32 段後半 (11) 第 41 段前半 (12) 第 41 段後半 (13) 第 89 段前半 (14) 第 89 段後半 (15) 総括 くずし字解読テスト	
自学自習	事前学習	・ 毎回、くずし字を前もって翻字しておくこと。 ・ 意味のわからない語句や表現をチェックしておくこと。
	事後学習	・ くずし字を再確認する。 ・ 演習中に明らかになった問題点について再考する。
使用教材・参考文献	使用教材	小川剛生『新版徒然草 現代語訳付き』角川ソフィア文庫 2015年 ISBN 9784044001186
	参考文献	新編日本古典文学全集『徒然草 他』小学館 1995年 ISBN 9784096580448 新潮日本古典集成『徒然草』新潮社 1977年 ISBN 9784106203107 他
成績評価の基準と方法	基準	作成した発表資料に基づきながら発表、質疑応答を行い、くずし字確認テストでくずし字を解読できれば合格とします。
	方法	演習 (50%)、くずし字確認テスト (40%)、授業参加度 (10%)
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中世文学講読Ⅱ	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	演習形式で『平家物語』巻三「足摺の事」をくずし字で輪読する。語句や表現を調べ、考察した内容を現代語訳とともに発表する。そのうえで、受講者全員でディスカッションを行い、『平家物語』に描かれる俊寛の逸話と展開について理解を深める。
	到達目標	1) くずし字を解読することができる。 2) 古語の意味を調べ、現代語訳ができる。 3) 『平家物語』に描かれる俊寛の逸話とその展開について理解を深める。
授業計画	(1) 『平家物語』の概要 (2) 俊寛について (3) くずし字解読練習 (4) 足摺の事① (演習モデル) (5) 足摺の事② (6) 足摺の事③ (7) 足摺の事④ (8) 足摺の事⑤ (9) 足摺の事⑥ (10) 足摺の事⑦ (11) 足摺の事⑧ (12) 足摺の事⑨ (13) 足摺の事⑩ (14) 謡曲「俊寛」について (15) 総括 くずし字解読テスト	
自学自習	事前学習	・ 毎回、くずし字を前もって翻字しておくこと。 ・ 意味のわからない語句や表現をチェックしておくこと。
	事後学習	・ くずし字を再確認する。 ・ 演習中に明らかになった問題点について再考する。
使用教材・参考文献	使用教材	佐藤謙三『平家物語 上巻』角川ソフィア文庫 1959年 ISBN 9784044007010
	参考文献	新編日本古典文学全集『平家物語』1994年 ISBN 9784096580455 新潮日本古典集成『平家物語』1979年 ISBN 9784106203251 他
成績評価の基準と方法	基準	作成した発表資料に基づきながら発表、質疑応答を行い、くずし字確認テストでくずし字を解読できれば合格とする。
	方法	演習 (50%)、くずし字確認テスト (40%)、授業参加度 (10%)
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	近世文学講読 I	
担当者	亀井 森 / KAMEI, Shin	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「吉備津の釜」をとりあげ、古典の奥深さに触れる。
	到達目標	江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。
授業計画	(1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「吉備津の釜」読解 (6) 「吉備津の釜」読解 (7) 「吉備津の釜」読解 (8) 「吉備津の釜」読解 (9) 「吉備津の釜」読解 (10) 「吉備津の釜」読解 (11) 「吉備津の釜」読解 (12) 「吉備津の釜」読解 (13) 「吉備津の釜」読解 (14) 「吉備津の釜」読解 (15) 授業の総括	
自学自習	事前学習	使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを適宜配布する。
	参考文献	授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。
成績評価の基準と方法	基準	下記評価方法によって60%以上を合格とする。
	方法	レポート・小テスト (20%)、受講態度 (30%)、最終試験 (50%)
備考	本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。適宜小テストを行う。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	近世文学講読Ⅱ	
担当者	亀井 森 / KAMEI, Shin	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本の代表的な怪談である上田秋成の『雨月物語』の中から「蛇性の姪（じゃせいのいん）」をとりあげ、古典の奥深さに触れる。
	到達目標	江戸時代の版本を読解できるようにくずし字を練習し、古典和歌や中国との関わりにも視野を広げ、広く国文学と国語に関心を持つようになる。
授業計画	(1) ガイダンス・基礎の確認 (2) くずし字とはなにか。 (3) 江戸時代について (4) 上田秋成について (5) 「蛇性の姪」読解 (6) 「蛇性の姪」読解 (7) 「蛇性の姪」読解 (8) 「蛇性の姪」読解 (9) 「蛇性の姪」読解 (10) 「蛇性の姪」読解 (11) 「蛇性の姪」読解 (12) 「蛇性の姪」読解 (13) 「蛇性の姪」読解 (14) 「蛇性の姪」読解 (15) 授業の総括	
自学自習	事前学習	使用教材を前もって読んでおくこと。
	事後学習	授業の初めに前回の授業内容を確認するので、復習をしておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを適宜配布する。
	参考文献	上田秋成『雨月物語』（鶴月洋訳注、角川ソフィア文庫、平成18年、ISBN978-4-04-401102-4）
成績評価の基準と方法	基準	下記評価方法によって60%以上を合格とする。
	方法	レポート・小テスト（20%）、受講態度（30%）、最終試験（50%）
備考	本講義では版本だけでなく、活字、まんがやその他のメディアを利用して『雨月物語』が描こうとした世界を理解したいと考えている。適宜小テストを行う。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	近代文学講読 I	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	大正期に発表された代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。
	到達目標	小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。
授業計画	(1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 大正時代概観 (3) 田村俊子「女作者」 (4) 上司小剣「鱧の皮」 (5) 岡本綺堂「子供役者の死」 (6) 里見淳「銀二郎の片腕」 (7) 広津和郎「師崎行」 (8) 有島武郎「小さき者へ」 (9) 芥川龍之介「奉教人の死」 (10) 宇野浩二「屋根裏の法学士」 (11) 岩野泡鳴「猫八」 (12) 菊池寛「入れ札」 (13) 葛西善蔵「椎の若葉」 (14) 葉山嘉樹「淫売婦」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。
使用教材・参考文献	使用教材	紅野敏郎・紅野謙介他編『日本近代短篇小説選 大正篇』 2012年 岩波文庫 ISBN978-4-00-311913-6
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。
	方法	発表 40%、レポート 30%、受講態度 30%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	近代文学講読Ⅱ	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	昭和初期の代表的な短編小説を講読し、近代文学の読み方、発表の方法の基本を養う。
	到達目標	小説作品についての調査、発表の方法の基礎が理解できるようになる。
授業計画	(1) ガイダンス 発表の方法・分担 (2) 昭和初期概観 (3) 平林たい子「施療室にて」 (4) 井伏鱒二「鯉」 (5) 佐多稲子「キャラメル工場から」 (6) 横光利一「機械」 (7) 梶井基次郎「闇の絵巻」 (8) 小林多喜二「母たち」 (9) 室生犀星「あにいもうと」 (10) 北条民雄「いのちの初夜」 (11) 宮本百合子「築地河岸」 (12) 高見順「虚実」 (13) 岡本かの子「家霊」 (14) 太宰治「待つ」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	発表者は次の授業時の司会、及び議論の口火を切る質問をするので準備すること。
使用教材・参考文献	使用教材	紅野敏郎・紅野謙介他編『日本近代短編小説選 昭和篇 1』 2012年 岩波文庫 ISBN978-4-00-311914-3
	参考文献	授業時に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	作品を読む初歩的な方法が身についたと確認できれば合格とする。
	方法	発表 40%、レポート 30%、受講態度 30%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	中国文学概説 I	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	古代から六朝時代までの中国文学史。但し中国の伝統的な意味での「文学」を、その担い手「士大夫」の活動という視点で講じる。
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 「文学」とは何か (3) 士大夫と中国の伝統的書籍分類体系 (4) 『詩経』について (5) 儒家思想と文学との関係 1 (6) 漢代の賦 1 司馬相如「上林賦」を読む (7) 漢代の賦 2 嵇康 (8) 漢代の詩と五言詩の起源 (9) 三国時代の詩 1 (10) 三国時代の詩 2 (11) 「三国時代における文学の独立」 (12) 儒家思想と文学との関係 2 (13) 『文選』と「文」 (14) 『詩品』と『文心雕竜』 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	鈴木修次編『文学史』中国文化叢書 5 大修館書店 1967 年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書 4 大修館書店 1968 年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987 年
成績評価の基準と方法	基準	授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。
	方法	筆記試験 60% 出席態度 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国文学概説Ⅱ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 必修 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	中国文学概説Ⅰで採りあげられなかった中国古典の重要なジャンルについての講義。
	到達目標	中国古典文学の主要なジャンルに親しみ基本知識を得る。 中国古典文学の社会的位置づけを理解する。
授業計画	(1) 授業のオリエンテーションと中国古典を理解するための基礎知識 (2) 楚辞と屈原 1 (3) 楚辞と屈原 2 (4) 司馬遷と『史記』 (5) 正史の形式 (6) 『史記』司馬相如列伝を読む (7) 中国の叙事詩 1 (8) 中国の叙事詩 2 (9) 娯楽としての悲哀 (10) 中国の小説 1 「小説」とは何か (11) 中国の小説 2 志怪小説と志人小説 (12) 士大夫と詩 1 阮籍 (13) 士大夫と詩 2 陶淵明 (14) 士大夫と詩 3 顧炎武「詩は必ずしも人々皆作るにあらず」 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に資料と結論との関係を再確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	鈴木修次編『文学史』中国文化叢書5 大修館書店 1967年 鈴木修次編『文学概論』中国文化叢書4 大修館書店 1968年 近藤春雄『中国学芸大辞典』大修館書店 1987年
成績評価の基準と方法	基準	授業内容に応じた中国古典文学に関する知識と理解があれば合格とする。
	方法	筆記試験 60% 出席態度 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国文学講読（詩）Ⅰ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	唐詩の演習。Ⅰでは『唐詩選』所収の初唐、盛唐の詩を採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 演習 (11) 演習 (12) 演習 (13) 演習 (14) 演習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	小川環樹編 『唐代の詩人』 大修館書店 1975年 植木久行編 『唐詩の風土』 研文出版 1983年 野口一雄 『漢詩歳時記』 講談社 1995年
成績評価の基準と方法	基準	演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。
	方法	演習 60% 出席態度 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国文学講読（詩）Ⅱ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	唐詩の演習。Ⅱでは中唐、晩唐の詩を適宜採り上げる。担当者は一回につき絶句一篇を担当し、原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 詩を表現技巧と構成に基づいて解釈し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 演習 (11) 演習 (12) 演習 (13) 演習 (14) 演習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	小川環樹編 『唐代の詩人』 大修館書店 1975年 植木久行編 『唐詩の風土』 研文出版 1983年 野口一雄 『漢詩歳時記』 講談社 1995年
成績評価の基準と方法	基準	演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。
	方法	演習 60% 出席態度 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	中国文学講読（散文）Ⅰ	
担当者	宮野 直也 / MIYANO, Naoya	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	唐代伝奇小説の演習。担当者は指定された範囲の原文、書き下し文、語釈、通釈と、必要に応じて典故、事項、時代背景などの説明を含むレジュメを作成し、授業で説明して質問に応じる。
	到達目標	漢和辞典を活用できるようになる。 漢字と漢文訓読に習熟する。 古典を読解し、その内容を説明する方法を実践で学ぶ。
授業計画	(1) オリエンテーションと演習担当日程の決定 (2) 演習の手本 (3) 演習 (4) 演習 (5) 演習 (6) 演習 (7) 演習 (8) 演習 (9) 演習 (10) 演習 (11) 演習 (12) 演習 (13) 演習 (14) 演習 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業内容の復習。特に、分からない文字、熟語を漢和辞典で確認すること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	月刊 『しにか 97/3 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 月刊 『しにか 97/10 中国古典小説入門Ⅰ』 大修館書店 1997年 『幻想文学 44 中国幻想小説必携』 アトリエ OCTA 1995年
成績評価の基準と方法	基準	演習の準備と発表の努力と結果が到達目標に相応しいと認められれば合格とする。
	方法	演習 60% 出席態度 40%
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	古代文学特講	
担当者	日高 愛子 / HIDAKA, Aiko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	古代文学の主要な作品のなかから九州を中心とした地方に関連する場面を取り上げ、原文を読みながら、文学と地方との関係について理解を深め、古典文学に親しむために必要な基礎的知識と読解力を身につける。また、関連する史跡や絵画などを紹介し、グループワークや意見交換を行いながら、作品の享受やその周辺の文芸について考える。
	到達目標	1) 原文を正しく読み、解釈することができる。 2) 古語の意味や古典常識について調べ、理解する。 3) 授業で取り上げた作品の特徴について説明できる。 4) 日本古来の文化と伝統について理解を深める。
授業計画	(1) ガイダンス (授業の進め方、日本文学史における時代区分について、等) (2) 『菅家後集』—菅原道真の漢詩と筑紫 (3) 『伊勢物語』—筑紫まで行った男 (4) 『大和物語』(1)—「筑紫なりける女」の物語 (5) 『大和物語』(2)—檜垣姫と白河 (6) 『拾遺和歌集』—清原元輔の肥後守赴任と和歌 (7) 『蜻蛉日記』—「みみらくの島」伝説 (8) 『枕草子』—奥書にみる清少納言の姿 (9) 『源氏物語』(1)—玉鬘の物語 (10) 『源氏物語』(2)—紫式部にとっての九州 (11) 『和泉式部日記』—和泉式部の逸話と伝承 (12) 『大鏡』(1)—菅原道真の逸話 (13) 『大鏡』(2)—天神信仰の展開 (14) 『今昔物語集』—武蔵寺と出家功德の話 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・配布資料の原文を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない語句や表現をチェックしておくこと。
	事後学習	・配布資料を読み直し、語句や表現について再確認する。 ・授業内で指摘された意見や内容を踏まえて、考えをまとめる。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。授業中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	『新編日本古典文学全集』小学館 『新潮日本古典集成』新潮社 ほか
成績評価の基準と方法	基準	グループワークなどによる課題を完成させ、その成果を最終レポートとして提出すれば合格とする。
	方法	課題 (50%)、最終レポート (40%)、授業参加度 (10%)
備考	毎回、古語辞書を持ってくること。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	近世文学特講	
担当者	丹羽 謙治 / NIWA, Ken'ji	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	江戸時代の俗文学においては、滑稽と教訓の要素が二本の柱となっていた。本講義では江戸の滑稽本の流れを汲んで薩摩（鹿児島）で作られた滑稽本を講読しながら、作品に現れた滑稽と教訓について考える。
	到達目標	近世庶民文化の特質を理解できる。近世の小説の中に使われている古典と同時代的な要素の組み合わせを理解する。
授業計画	(1) 導入 江戸時代の庶民文芸と書物の概説 (2) 地獄ものの滑稽本の系譜（1） (3) 地獄ものの滑稽本の系譜（2） (4) 『夢中の夢』の諸本と作者 (5) 『夢中の夢』講読（1） (6) 『夢中の夢』講読（2） (7) 『夢中の夢』講読（3） (8) 『夢中の夢』講読（4） (9) 『夢中の夢』講読（5） (10) 『夢中の夢』講読（6） (11) 『夢中の夢』講読（7） (12) 『夢中の夢』講読（8） (13) 『夢中の夢』講読（9） (14) 『夢中の夢』講読（10） (15)まとめ	
自学自習	事前学習	・配布されたテキストを前もって読んでおくこと。
	事後学習	・授業で扱った内容を再度確認する。また自分で調べる。特殊な専門用語を辞書などで確認し記憶しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	授業の中で適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	滑稽本の内容に関して正しい認識を身につけられたかどうか、江戸の表現の面白さに気づくことができているかどうかを判断して、合否を決定する。
	方法	小レポート（20%）、試験（80%）。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	近代文学特講 I	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	文学の重要な要素である「書くこと」と「作家であること」について考える。
	到達目標	種々の文化現象を分析することによって、「作家」をめぐる問題点を理解する。
授業計画	(1) イントロダクション 「書くこと」と「作家であること」 (2) 「書くこと」と「作家であること」のいま①（「文学のカラオケ化」をめぐる） (3) 「書くこと」と「作家であること」のいま②（『バクマン』を例に1） (4) 「書くこと」と「作家であること」のいま③（『バクマン』を例に2） (5) 「書くこと」と「作家であること」のいま④（笙野頼子『徹底抗戦!文士の森』から） (6) 筒井康隆『大いなる助走』①（モデルと直木賞） (7) 筒井康隆『大いなる助走』②（映画化からわかること） (8) 筒井康隆『大いなる助走』③（文学場周辺のカリカチュアとして） (9) 筒井康隆『大いなる助走』④（テキストに表現された「書くこと」の意義） (10) 筒井康隆『大いなる助走』⑤（何が主人公に「書くこと」の意義を忘れさせたのか） (11) 北條民雄「道化芝居」①（「書かねばならないもの」としての小説） (12) 北條民雄「道化芝居」②（ハンセン病と北條民雄という難問） (13) 北條民雄「道化芝居」③（転向者と〈社会〉） (14) 北條民雄「道化芝居」④（「いのちの初夜」をこえて） (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各授業終了時にコメントシートを記入し、提出。
使用教材・参考文献	使用教材	・筒井康隆『大いなる助走』 2005年 文春文庫 ISBN4-16-718114-2 ・他はプリントを配布する。
	参考文献	授業中に適宜指示する
成績評価の基準と方法	基準	種々の文化現象を自分の社会の問題として捉え、それを言語化できる。
	方法	レポート60%、受講態度30%、コメントシート10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	近代文学特講Ⅱ	
担当者	三浦 卓 / MIURA, Taku	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	言語活動の重要な一側面である「引用」について考える。
	到達目標	「引用」およびパクリや著作権に関する問題系に関して理解を深める。
授業計画	(1) イントロダクション 「引用」とは？ (2) 「引用」をめぐって①（パクリ・著作権にまつわる問題系） (3) 「引用」をめぐって②（諸ジャンルにおける「引用」など） (4) 川端康成「住吉」①（古典引用がもたらす川端イメージをめぐって） (5) 川端康成「住吉」②（融解する語り） (6) 川端康成「住吉」③（テキストに「引用」がもたらしたもの） (7) 「引用」に関する理論①（オリジナリティという幻想） (8) 「引用」に関する理論②（文面と言表行為） (9) 「引用」に関する理論③（「引用」と記号論） (10)川端康成『雪国』①（発表経緯と同時代） (11)川端康成『雪国』②（登場人物の認識をめぐって） (12)川端康成『雪国』③（「日本的」という問題系） (13)川端康成『雪国』④（書き継ぎにおける「引用」をめぐって） (14)清水義範「スノー・カントリー」とパロディに関する理論 (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	各授業終了時にコメントシートを記入し提出。
使用教材・参考文献	使用教材	・川端康成『雪国』 2006年 新潮文庫 ISBN-13: 978-4101001012 ・他はプリントを配布。
	参考文献	授業中に適宜指示する。
成績評価の基準と方法	基準	「引用」に関する考察を通して、パクリや著作権に関する現状の問題点を理解する。
	方法	学期末レポート60%、受講態度30%、コメントシート10%。ただしそれぞれ合格点を満たしていること。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語教育の基礎 I	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母語の学習と外国語学習とを比較しながら、日本語教育の特色が理解できるようになる。</li> <li>2. 外国語教授法にはどのようなものがあるか具体的に知るとともに、各教授法の長所と短所が理解できるようになる。</li> <li>3. 17世紀から今日までの日本語教育史の概略が理解できる。</li> <li>4. 教科書分析の視点を理解し、それに基づき教科書分析ができるようになる。</li> <li>5. 日本語学習者の音声学習上の問題点とその指導法が理解できるようになる。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本語教育の現状と課題</li> <li>(2) 日本語教育の特色</li> <li>(3) 母語の学習と外国語学習</li> <li>(4) 母語の学習と外国語学習</li> <li>(5) 外国語教授法のいろいろ</li> <li>(6) 外国語教授法のいろいろ</li> <li>(7) 外国語教授法のいろいろ</li> <li>(8) 日本語教育の歴史</li> <li>(9) 日本語教育の歴史</li> <li>(10) 日本語教育の歴史</li> <li>(11) 日本語教育のレベル別目標</li> <li>(12) 日本語教育用教科書について</li> <li>(13) 日本語の音声とその指導</li> <li>(14) 日本語の音声とその指導</li> <li>(15) 日本語の音声とその指導</li> </ol>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の該当章を前もって読んでおくこと。</li> <li>・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容を更に深めるために参考文献を読んだり、小テスト・期末試験で得点が取れるよう教科書や配付資料を十分に復習したりすること。</li> </ul>
使用教材・参考文献	使用教材	石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店 ISBN4-469-22107-4
	参考文献	日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店 ISBN4-469-01229-7 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店 ISBN4-469-01276-9
成績評価の基準と方法	基準	日本語教育の特色、各教授法の長所と短所、日本語教育史の概略、音声学習上の問題点とその指導法が理解でき、教科書分析もできれば、合格とする。
	方法	音声小テスト (20点)、教科書分析レポート (30点)、前期末試験 (50点)
備考	授業回数の3分の1以上欠席した場合、不合格とする。2回の遅刻・早退で1回の欠席とみなす。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語教育の基礎Ⅱ	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「日本語教育の基礎Ⅰ」に引き続き、日本語を第一言語としない人たちに日本語を指導するために日本語教師として必要な基礎知識を日本語教育の各領域に分けて概説する。
	到達目標	1. 日本語の文字・語彙・文法に関する指導項目が把握でき、それらの指導法も理解できるようになる。 2. 四技能（聴く・話す・読む・書く）の学習上の問題点が把握でき、それらの効果的な指導法も理解できるようになる。 3. 各視聴覚教材の特徴がわかり、それらの効果的な使用法も理解できるようになる。
授業計画	(1) 日本語の文字とその指導 (2) 日本語の文法とその教育 (3) 日本語の文法とその教育 (4) 日本語の文法とその教育 (5) 日本語の文法とその教育 (6) 日本語の語彙とその指導 (7) 日本語の語彙とその指導 (8) 聴解における学習者の問題点とその指導法／話すことにおける学習者の問題点とその指導法 (9) 聴解における学習者の問題点とその指導法／話すことにおける学習者の問題点とその指導法 (10) 聴解における学習者の問題点とその指導法／話すことにおける学習者の問題点とその指導法 (11) 読解における学習者の問題点とその指導法／書くことにおける学習者の問題点とその指導法 (12) 読解における学習者の問題点とその指導法／書くことにおける学習者の問題点とその指導法 (13) 読解における学習者の問題点とその指導法／書くことにおける学習者の問題点とその指導法 (14) 視聴覚教材の特徴とその使用法 (15) 視聴覚教材の特徴とその使用法	
自学自習	事前学習	・教科書の該当章を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・講義内容を更に深めるために参考文献を読んだり、小テスト・期末試験で高得点が取れるよう十分に復習したりすること。
使用教材・参考文献	使用教材	石田敏子『改訂新版 日本語教授法』1995年 大修館書店 ISBN4-469-22107-4
	参考文献	日本語教育学会編『日本語教育ハンドブック』1990年 大修館書店 ISBN4-469-01229-7 日本語教育学会編『新版 日本語教育事典』2005年 大修館書店 ISBN4-469-01276-9
成績評価の基準と方法	基準	日本語教育で扱われる文字・語彙・文法とは何か、聴解・話す・読解・書くにおける学習者の問題点とは何か、各視聴覚教材の長所と短所が理解できれば、合格とする。
	方法	日本語教育用文法用語小テスト（30点）、後期末試験（70点）
備考	・「日本語教育の基礎Ⅰ」の履修者を対象としている。 ・授業回数＝以上欠席した場合、不合格とする。また、2回の遅刻・早退で1回の欠席とみなす。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語教授法 I	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	-	
科目概要	授業内容	コースデザインとは何か、日本語教授法に関する理論などを講義し、その後日本語初級レベル（日本語能力試験 N5～N3 相当）の指導法を実際に体験する。
	到達目標	1. コースデザインの概要が理解できるようになる。 2. 初級文型とは何かがわかり、文の特徴に合わせた文型練習が既習の日本語だけで手際よく行えるようになる。 3. 初級学習者向けにフォリナートークができるようになる。 4. 初級指導のために適切な教材教具が使用できるようになる。
授業計画	(1) コースデザインの概要（講義） (2) コースデザインの概要（講義） (3) コースデザインの概要（講義） (4) 導入のための教室活動（講義） (5) 文法練習の種類と具体的なやり方＝オーディオリング法・TPR・CLL＝（講義） (6) 初級文型の導入と文型練習の模擬授業（演習） (7) 初級文型の導入と文型練習の模擬授業（演習） (8) 初級文型の導入と文型練習の模擬授業（演習） (9) 新出語彙の教え方、本文（会話文）の教え方（講義） (10) コミュニカティブアプローチに基づくコミュニケーション活動の教材の作り方および指導のやり方（講義） (11) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習） (12) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習） (13) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習） (14) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習） (15) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習）	
自学自習	事前学習	・「使用教材と配付プリント」の該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・事前個別指導を受けるための予習をしておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・演習・期末試験に備え、学習した内容を確実に理解しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	『みんなの日本語初級 I 第 2 版 本冊』（ISBN 978-4-88319-603-6）『同左 翻訳・文法解説』（ISBN978-4-88319-604-3）『同左 教え方の手引き』（ISBN 4-88319-160-5）スリーエーネットワーク 1998 年
	参考文献	鎌田修著編『日本語教授法ワークショップ』凡人社 1996 年 ISBN 9784893583512 田中望『日本語教育の方法＝コースデザインの実際＝』大修館 1988 年 ISBN 9784469220599
成績評価の基準と方法	基準	コースデザインの概要、導入のやり方、文型練習のやり方、コミュニカティブアプローチにもとづく練習のやり方などがわかり、かつ文型練習については実際に行えれば合格とする。ただし、各人 2 回の演習のうち 1 回でも無断欠席をした者は、合格としない。
	方法	発言等の積極性（10 点）、ニーズ調査表作成（20 点）、宿題（10 点）、演習（30 点）、前期末試験（30 点）
備考	「日本語教育の基礎 I」「日本語教育の基礎 II」を履修済みまたは履修中の者を対象とする。「日本語教授法 II」「日本語教育実習」を受講予定の者は履修すること。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル


科目名	日本語教授法Ⅱ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
	—	
科目概要	授業内容	(1) 中級レベルの日本語教育 (講義) (2) 中級レベルの教案の作り方と指導法 (講義) (3) 模擬授業 (演習) とフィードバック
	到達目標	(1) 中級レベルの教授法、教材およびその内容について理解する。 (2) 中級レベルの文型と指導法について理解する。 (3) 中級レベルの教案の作り方を理解し、教案が作れる。 (4) 中級レベルの模擬授業を適切に行える。
授業計画	(1) 中上級レベルの日本語教育 (講義) (2) 中上級レベルの日本語教育 (講義) (3) 中上級レベルの日本語教育 (講義) (4) 中級レベルの教案の作り方と指導法 (講義) (5) 中級レベルの教案の作り方と指導法 (講義) (6) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (7) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (8) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (9) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (10) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (11) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (12) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (13) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (14) 模擬授業 (演習) およびフィードバック (15) 模擬授業 (演習) およびフィードバック	
自学自習	事前学習	(1) 教材を熟読し、自分の担当箇所の指導法を考えておくこと。 (2) 担当する文型について複数の文型辞典で調べておくこと。 (3) 模擬授業の前に教案を作成し、必要に応じて事前指導を受けること。
	事後学習	自分が行った模擬授業の問題点を把握し、次回の授業で改善すること。
使用教材・参考文献	使用教材	『みんなの日本語中級Ⅰ 本冊』2008年 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級Ⅰ 教え方の手引き』2010年 スリーエーネットワーク
	参考文献	庵功雄ほか『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク 2001年 グループ・ジャマイ『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版 1998年
成績評価の基準と方法	基準	上記の到達目標を達成したものを合格とする。
	方法	授業での積極性(10点)、演習(50点)、期末試験(40点)で評価する。
備考	今年度「日本語教育実習」(後期)を受講する者は必ず受講すること。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本語教育実習	
担当者	◎新内 康子 入佐 信宏	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 実習・演習 / 2単位 /	
	—	
科目概要	授業内容	日本語の初級と中級の教材研究、教案作成、授業観察、教育実習、振り返りを行う。
	到達目標	1. 日本語初級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。 2. 日本語中級レベル用の教材研究の視点が持てるようになるとともに、教案を作成しそれに基づき効果的に教えられるようになる。
授業計画	(1) 実習に関する全容説明 (入佐・新内) (2) 授業の実際 (入佐・新内) (3) 初級授業と初級教案作成法 (新内・入佐) (4) 中級授業と中級教案作成法 (入佐・新内) (5) 1回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (6) 2回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (7) 3回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (8) 4回目実習指導: 初級 (新内) 中級 (入佐) (9) 実習準備 (新内・入佐) (10) 実習準備 (新内・入佐) (11) 実習準備 (新内・入佐) (12) 1回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (13) 2回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (14) 3回目初級・中級実習検討 (新内・入佐) (15) 4回目初級・中級実習検討 (新内・入佐)	
自学自習	事前学習	・教材研究を前もって十分行うこと。 ・教案作成を行う際には十分検討すること。
	事後学習	・録画された各実習生の授業DVDを観察して、授業のフィードバックを行い、次の授業改善に努めること。
使用教材・参考文献	使用教材	『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 本冊』(ISBN978-4-88319-646-3)『同左 翻訳文法解説』(ISBN978-4-88319-664-7)『同左 教え方の手引き』(ISBN978-4-88319-204-5) 1998年 スリーエーネットワーク 『みんなの日本語中級Ⅰ本冊』(ISBN978-4-88319-468-1)『同左 教え方の手引き』(ISBN978-4-88319-491-9) 2008年 スリーエーネットワーク
	参考文献	授業時に適宜紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	教材研究の成果が反映された教案が作成でき、かつそれに基づいて日本語の初級ならびに中級授業が行えれば合格とする。
	方法	授業観察レポート(10点)、教育実習(70点)、ふりかえり表(10点)、最終レポート(10点)
備考	1. 「日本語教育の基礎Ⅰ」「日本語教育の基礎Ⅱ」「日本語教授法Ⅰ」をすべて履修し、かつ「日本語教授法Ⅱ」を履修済みか履修中の者を対象としている。 2. 時間割上の授業、授業観察、教育実習で2回以上欠席した者は不合格とする。また、遅刻2回につき1回の欠席とする。 3. 実習費6,000円を納めなければならない。 4. 実習授業以外にも時間割の授業以外に行われる指導やグループ作業が多いことを承知してください。	

授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)

教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル
-----------	-------------	-----




科目名	書道（書写）	
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	実技をとおして教育書道、実用書道、芸術書道の接点と相違点を探る。
	到達目標	書道は、学校生活及び社会生活に必要な基礎的な教養であり、文字を正しく整えて書くことに重点が置かれる。高校や一般の芸術書道となると学習方法並びに学習指導は、表現（書くこと）鑑賞（見ること）と理論（考えること）の三位一体でなされるが、この授業では学習者が教育・実用・芸術書道の接点と相違を理解することにより書写能力を高め表現のための感性を磨くことを目標にしたい。
授業計画	(1) 漢字の学習 篆書を書く (2) 漢字の学習 隸書を書く (3) 漢字の学習 楷書を書く (4) 漢字の学習 行書を書く (5) 漢字の学習 草書を書く (6) 仮名の学習 平仮名の単体 (7) 仮名の学習 連綿の方法 (8) 仮名の学習 変体仮名の学習 (9) 仮名の学習 俳句を書く (10) 仮名の学習 短歌を書く (11) 落款と印 (12) 漢字仮名交じりの書 身近な言葉を書く (13) 漢字仮名交じりの書 近代詩文を書く (14) 手紙・年賀状・暑中見舞い・のし袋の書き方など (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・前回までの提出作品の確認と整理を行う。 ・前半に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	野口白汀ほか12名 『書Ⅰ』『書Ⅱ』教育図書2008年
	参考文献	魚住和晃・萩信雄編『書学挙要』藝文書院2001年
成績評価の基準と方法	基準	出席状況と提出作品、簡単なレポート、受講態度。提出作品がない場合は不合格とする。
	方法	作品70%、レポート10%、出席態度20%
備考	適宜手本や資料プリントを配布する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	書道史	
担当者	伊之口 芳至 / INOKUCHI, Yoshiyuki	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	書の歴史を時代別に区分し、古典を解説しながらその書道史の流れを捉える。
	到達目標	三千余年にわたる書の伝統と歴史は、書写文字の簡略化と美化の連続であったといえる。日本に伝わった漢字を受容し和様化と仮名を完成した日本人の感性など書の魅力は尽きない。中国と日本の書の歴史を豊富な古典の資料を解説しながら、時代区分を越えて展開されてきた大きな書道史の流れを学習者が把握できるように授業を進めたい。
授業計画	(1) 中国書道史 文字の起源と甲骨文字 (2) 中国書道史 金文と周代の書法 (3) 中国書道史 秦代の文字の統一と隷書への変化へ (4) 中国書道史 漢代の隷書と用筆美 (5) 中国書道史 草書・行書・楷書の萌芽 (6) 中国書道史 六朝の書と書聖 (7) 中国書道史 隋・唐の楷書 (8) 中国書道史 個性と開放の宗代 (9) 中国書道史 元・明・清の書法とその流れ (10) 中国書道史 帖学と碑学 (11) 日本書道史 漢字の伝来 (12) 日本書道史 奈良時代の書法と写経 (13) 日本書道史 平安時代と仮名の完成 (14) 日本書道史 その後の書道史と今後の書道 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業の初めに前回の授業内容の確認を行う。 ・前半に小レポートを課す。
使用教材・参考文献	使用教材	鈴木翠軒・伊東参州共著『新設 和漢書道史』日本習字普及協会 1996年
	参考文献	藤原鶴来『和漢書道史』二玄社 1927年
成績評価の基準と方法	基準	出席状況、レポート、受講態度と到達目標に達した者を合格とします。
	方法	レポート 70%、受講態度 30%
備考	適宜補充プリントを配布する。読書レポートの内容も成績評価の対象とする。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語の文法 I	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の 8 品詞、5 文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。
	到達目標	8 品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5 文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること。
授業計画	(1) 文の構造と要素 (2) 文の種類 (3) 動詞 (4) 時制 (5) 助動詞 (6) 動詞の態 (7) to-不定詞 (8) 原形不定詞 (9) 分詞 (10) 動名詞 (11) 関係代名詞 (12) 関係副詞 (13) 比較級 (14) 最上級 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。
使用教材・参考文献	使用教材	河上道生 監修, 丸井晃二郎 著 『ORBIT 総合英語』 山口書店 1996 年 ISBN4-8411-1387-8
	参考文献	なし
成績評価の基準と方法	基準	8 品詞、5 文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。
	方法	Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%
備考	毎回の出席を心がけて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語の文法Ⅱ	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	英語の8品詞、5文型について学び、その機能、具体的な使い方を理解する。
	到達目標	8品詞の具体例を列挙できること、そして、それらを使って、5文型の中に相当する英文を要領よく作れるようになること
授業計画	(1) 不定詞 (2) 分詞 (3) 時制 (4) 進行形 (5) 完了形 (6) 態 (7) 仮定法 (8) 比較構文 (9) 否定 (10) 数量詞 (11) 法助動詞 (12) 副詞 (13) 代名詞 (14) 関係詞 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	品詞、文型、句、節の使い分けについての確認を毎週行う。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	安井稔 著『英文法総覧』開拓社 1982年
成績評価の基準と方法	基準	8品詞、5文型を具体的に使いこなせるものは合格とする。
	方法	Class Participation 25%, Homework 25%, Final 50%
備考	毎回の出席を心がけて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英語学概論	
担当者	蒲地 賢一郎 / KAMACHI, Kenichiro	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	言語学、そして英語学入門としての授業をおこなう。具体的に言語現象（語、語句、文）を観察、分析する。
	到達目標	英語学の中に存在する、各分野について学び、それらの区別ができるようになる。
授業計画	(1) 統語論(1) (2) 統語論(2) (3) 統語論(3) (4) 形態論(1) (5) 形態論(2) (6) 形態論(3) (7) 音韻論(1) (8) 音韻論(2) (9) 音韻論(3) (10)意味論(1) (11)意味論(2) (12)意味論(3) (13)語用論(1) (14)語用論(2) (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	数種の言語データの分析を毎週課す。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	An Introduction to Language. Victoria Fromkin and Robert Rodman. 1988.
成績評価の基準と方法	基準	与えられた言語（の文）に対して、言語学的な観察、分析ができるようになったものは合格とする。
	方法	Class Participation 50%, Final 50%
備考	毎回の出席を心がけて下さい。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英米文学概論 I	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	19世紀前半のアメリカン・ルネッサンスを中心に、作家や文化的背景を紹介し、作品の抜粋をできる限り原文で読む。必要に応じて英検、TOEICの指導も行う。
	到達目標	19世紀のアメリカの資本主義の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。
授業計画	(1) クール 1-1: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—演劇とサーカス (2) クール 1-2: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—ヒーローの登場 (3) クール 1-3: アメリカ資本主義の起源と大衆文化—『アラモ』を見る (4) クール 2-1: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品① (5) クール 2-2: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品② (6) クール 2-3: エドガー・アラン・ポーの小説と映画作品③—『アッシャー家の崩壊』を見る (7) クール 3-1: ナサニエル・ホーソンの文学① (8) クール 3-2: ナサニエル・ホーソンの文学② (9) クール 3-3: ナサニエル・ホーソンの文学③—『スカーレット・レター』を見る (10) クール 4-1: メルヴィルと『白鯨』① (11) クール 4-2: メルヴィルと『白鯨』② (12) クール 4-3: メルヴィルと『白鯨』③ (13) クール 4-4: メルヴィルと『白鯨』④—『白鯨』を見る (14) 質疑 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。
使用教材・参考文献	使用教材	プリント、ビデオ
	参考文献	プリント、ビデオ
成績評価の基準と方法	基準	授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。
	方法	筆記試験 80%、発言 20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	英米文学概論Ⅱ	
担当者	竹内 勝徳 / TAKEUCHI, Katsunori	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	ロスト・ジェネレーションのアメリカ文学作品と作家を概観すると共に、英語力を徹底強化する。必要に応じて英検、TOEIC の指導も行う。
	到達目標	20 世紀のアメリカの消費社会の展開と大衆文化の広がり、それに対する作家たちの反応について学ぶと共に、小説作品や映画作品を鑑賞することで英語の読解力や聴取能力を向上させる。
授業計画	(1) クール 1-1: 世紀末から大戦期のアメリカ (2) クール 1-2: 戦後 (1920ー) のアメリカ社会 (3) クール 1-3: 『キングコング』を見る (4) クール 2-1: フィッツジェラルドの生い立ち (5) クール 2-2: 『グレート・ギャツビー』を見る (6) クール 2-3: 『グレート・ギャツビー』分析 (7) クール 3-1: アーネスト・ヘミングウェイの青少年時代 (8) クール 3-2: ヨーロッパでの生活と『武器よさらば』 (9) クール 3-3: スペイン内乱と『誰がために鐘は鳴る』 (10) クール 3-4: 『老人と海』を見る (11) クール 4-1: 1929 年の大恐慌とその後 (12) クール 4-2: スタインベックとカリフォルニア (13) クール 4-3: 『怒りの葡萄』を見る (14) 質疑 (15) 総括	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・プリントの英文を読み返し、語句や表現を覚える。
使用教材・参考文献	使用教材	プリント、ビデオ
	参考文献	プリント、ビデオ
成績評価の基準と方法	基準	授業内容を理解し、作品中の英文を読み解けること。
	方法	筆記試験 80%、発言 20%。
備考		

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	日本史概説	
担当者	原口 泉 / HARAGUCHI, Izumi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	古代から幕末・維新への日本史の流れを史料に基づきながらたどっていく。
	到達目標	自国の歴史について基本的な理解を得、国際社会の中で解説できるようになる。
授業計画	(1) イントロ (2) 近世～戦国から天下泰平へ (3) 近世～戦国から天下泰平へ (4) 近世～戦国から天下泰平へ (5) 近世～戦国から天下泰平へ (6) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (7) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (8) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (9) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (10) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (11) 近代～ペリー来航から西南戦争まで (12) 日本資本主義の確立 (13) 日本資本主義の確立 (14) 日本資本主義の確立 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	配布プリントを前もって読んでおくこと。
	事後学習	配布プリントの精読。
使用教材・参考文献	使用教材	プリントを配布する。
	参考文献	宮地正人編『日本史』世界各国史1 山川出版社 2008年
成績評価の基準と方法	基準	時代の流れ、大要が理解できているかを判断基準とする。
	方法	レポート（80%）と受講態度（20%）で判断する。
備考	年表、歴史地図必携。社会人の聴講、歓迎。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル



科目名	民俗学概説	
担当者	森田 清美 / MORITA, Kiyomi	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 選択	
科目概要	授業内容	人々の民俗伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより生活文化の変容を明らかにし、人々の生き方を問う。そのうえで、老人や幼児への虐待・老人への詐欺、隣人愛の喪失・パワーハラ・ブラック企業・医療・介護・凶悪事件の増加などの諸問題を解決していくことを目指す。
	到達目標	日本人の伝統文化・こころを理解する。そのことにより、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知ることが出来る。そのうえで社会へ貢献する意欲と能力・実践力を身につける。
授業計画	(1) 民俗学とは何か（現代社会における民俗学の視点と応用） (2) 環境民俗学（家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む） (3) 人びとの生業（農業・漁業・諸職、建築儀礼など。魅力ある農水産業とは何か、起業意欲への応援と促進） (4) 年中行事の変化と意味（正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など） (5) 誕生祝い・成人式・結婚式・厄年祝いなどの問題（人生儀礼Ⅰ） (6) 生と死の意味を医療民俗学などを通して考える。（人生儀礼Ⅱ） (7) 健康・病气・医療・介護を医療民俗学的に考える（病气とは何か） (8) 修験道と呪術者から見る日本宗教（民間信仰・民俗宗教Ⅰ） (9) シャーマニズムと「隠れ念仏」（民俗宗教Ⅲ） (10) 民俗芸能の魅力と保存（太鼓踊などの伝統芸能と観光資源） (11) 今でも生きている昔話と伝説・ことわざ (12) 神話と民俗（日向神話（天孫ニニギノミコトの高千穂降臨の意味） (13) 妖怪と幽霊への興味と魅力 (14) 過疎の民俗・都市の民俗（地方崩壊への対処） (15) 総まとめ（現代民俗学の行方と社会への貢献について）	
自学自習	事前学習	毎回の授業を受けるにあたって、事前に予習しておくべき事項 ・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要、および次回まで復習すべき事項3回おきに、小レポートを課す。 授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。
使用教材・参考文献	使用教材	授業ごとにプリント（小冊子）を次回の分まで配布する。
	参考文献	○福田アツオ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館 ○谷口貢・板橋春夫編『日本人の一生』八千代書房 ○西海賢二など編『日本の霊山読み解き事典』柏書房（南九州・沖縄は森田清美担当）
成績評価の基準と方法	基準	総合的に、到達目標を踏まえて、民俗学の理解が深まり、民俗社会に貢献する心構えが出来た者を合格とする。
	方法	平常点（授業態度・出席 20点・レポート（20点）・期末試験（60点）
備考	希望により民俗学巡検（民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査調査）を実施。積極的に参加して欲しい（「まつり」を見に行こう）。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地誌学 I	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	地域を総合的に捉える地誌学とはどのようなものかについて①基礎知識, ②地域調査の手法, ③具体的事例の三つのステップで解説します。
	到達目標	地誌学の基礎を理解し, 地域調査法の簡単な手法を利用することができるようになることを目標とします。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 地誌学の流れ (3) 地域あるいは風土 1 (4) 地域あるいは風土 2 (5) 地域調査法—統計 (6) 地域調査法—多変量解析 1 (7) 地域調査法—多変量解析 2 (8) 地域調査法—多変量解析 3 (9) 地域調査法—空中写真 (10) 地域調査法—主題図作成 1 (11) 地域調査法—主題図作成 2 (12) 地域調査法—主題図作成 3 (13) 地域を見る—日本と九州 (14) 地域を見る—鹿児島 (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語については事前に調べておくこと。
	事後学習	・授業中に興味を持った内容について自ら調べてみること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に使用しない。必要に応じて資料を配付します。
	参考文献	中村和郎・岩田修二編『地誌学を考える』古今書院, 1986年。
成績評価の基準と方法	基準	地誌学の用語と考え方について説明できることと地域調査法の利用法を理解していることを基準とします。
	方法	試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。
備考	授業内で簡単な作業を行います。詳細は必要に応じて指示します。授業の進展状況に応じて内容を修正しながら進めることがあります。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	地誌学Ⅱ	
担当者	宗 建郎 / SOH, Tatsuroh	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	地域を総合的にとらえる視点について、①文献の活用、②地図の活用という観点から具体的な事例をふまえてお話しします。
	到達目標	地域について、文献や地図を活用して調査をする基礎的な方法を身につける。
授業計画	(1) イントロダクション (2) 文献に見る地域の姿 1 (3) 文献に見る地域の姿 2 (4) 文献に見る地域の姿 3 (5) 統計に見る地域の姿 (6) GIS とは (7) 統計による主題図の作成 1 (8) 統計による主題図の作成 2 (9) 統計による主題図の作成 3 (10) 地図に見る地域の姿 (11) 地図をつくる 1 (12) 地図をつくる 2 (13) 地図をつくる 3 (14) 地図・図表を用いたプレゼンテーション (15) まとめ	
自学自習	事前学習	・参考文献を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	地域調査の手法について復習しておくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布します。
	参考文献	今村洋大編著『Quantum GIS 入門』古今書院, 2013.
成績評価の基準と方法	基準	文献、地図を用いた地域調査法が身に付いている事を基準とします。
	方法	試験 50%, 授業内課題 30%, 受講態度 20%で評価します。
備考	授業の中で実際に作業を行います。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル